

研究課題名	メチシリン耐性コアグラウゼ陰性ブドウ球菌(MRCNS)感染症に対する抗メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)薬療法に関する網羅的解析
研究の意義・目的	<p>本研究は、MRCNS 感染症と診断された患者さんを対象に各種抗 MRSA 薬(バンコマイシン(VCM)、テイコプラニン(TEIC)、ダプトマイシン(DAP)、リネゾリド(LZD))で治療した際の有効性や安全性、さらに治療薬物モニタリング対象薬剤(VCM、TEIC)については血中濃度や AUC(血中濃度-時間曲線下面積)と治療効果・有害事象との関連を評価し、日常診療へフィードバックすることを目的としています。MRCNS は、ヒトの口腔内、皮膚、消化管などに常在し、カテーテル関連血流感染症、尿路感染症、感染性心内膜炎、皮膚軟部組織感染症の原因菌の一つです。米国感染症学会のガイドラインでは、MRSA と同様に、VCM が治療薬の第一選択とされています。</p> <p>しかしながら、MRCNS に対する VCM 治療では、VCM の定常状態時のトラフ濃度(最低血中濃度)や AUC の目標値および VCM の MIC 値(細菌が発育しない最小濃度)と治療効果との関係についての情報は十分とはいえません。また、VCM には、腎機能障害等の有害事象が高率で発現し、治療対象となる患者さんが限定され、他の抗 MRSA 薬に代替される場合があります。そこで、本研究では、MRCNS 感染症と診断された患者さんを対象に抗 MRSA 薬で治療した際の有効性や安全性、さらには血中濃度や AUC と治療効果・有害事象との関連を調べさせていただきます。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～ 2026年12月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2012年1月～2021年12月に大阪公立大学医学部附属病院で、MRCNS 感染症と診断され、抗 MRSA 薬(VCM、TEIC、DAP、LZD)を3日以上投与された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <p>診療情報等：【年齢、性別、身長、体重、現病歴、既往歴、投薬データ、検査データ】</p>
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院 感染制御部のみで行い、他の機関に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院 感染制御部のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学 研究責任者 掛屋 弘
本研究の利益相反	<p>利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪公立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学</p> <p>研究責任者 掛屋 弘</p> <p>電話番号：(06) 6645-3784</p> <p>メールアドレス：akeya@omu.ac.jp</p>